

事業完了報告書（事業の総括およびその価値）（資金分配団体）

事業名:	東近江・ポストコロナ対策助成事業
資金分配団体名:	公益財団法人東近江三方よし基金
実行団体数:	8団体
実施時期:	2021年3月～2022年3月
事業対象地域:	滋賀県東近江市
事業対象者:	<p>コロナウイルス感染症の影響を受けた市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の事業者・訪問者、在宅勤務を強いられた労働者 ・子育て中の親と子 ・学校に行きづらい子どもたち ・買い物難民 ・限界集落の住民及び関係者 ・外国国籍の住民 ・新しい働き方を模索する若者など

Version 2.0

日付: 2022年4月11日

I. 事業の概要（総括と価値）

事業の概要（総括と価値）	<p>2020年4月から5月の関係団体へのヒアリングから地域の課題が深刻化していることが分かった。これらに対応するため、2020年7月に新型コロナウイルス緊急支援助成を受け、10団体からの申請を受け、4事業を選定し事業を実施した（第1弾とする）。これらの事業は、外国人やひとり親家庭、地域の支え合い活動等どれも緊急性が高いと判断した生活弱者への支援活動とその体制強化であった。しかし、当初設定した地域課題のうち、経済の低迷による影響に対しての取組は実現しておらず、本事業では、この実現を図った。特に、地域資源を活用して地域課題の解決に取り組む事業者を対象とし、感染症対策も踏まえた事業展開によって、この感染拡大期においても事業継続できる活動を支援した。また、その際には、ポストコロナを見据えた働き方・学び方改革や交流のあり方にも貢献するものであるものとした。なお、今後の感染拡大の状況により、第1弾で対象とした「生活弱者への支援とその体制強化」についても継続して対象に含むものとした。</p> <p>具体的には8実行団体の事業を採択して、資金的及び非資金的支援を行うことによって、地方における新しい暮らし方・働き方を目指す人や生きづらさを抱える人へ緩やかな居場所の提供と支援が始まり、地域内外との交流も促進されるようになってきた。これらの活動は社会的・経済的・環境的に持続可能な地域社会の礎となる社会関係資本を太らせたことは、価値ある事業であった。</p>
--------------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>第1弾では緊急性が高いと判断した生活弱者への支援活動とその体制強化を目指す4実行団体を支援した。しかし、当初設定した地域課題のうち、経済の低迷による影響に対しての取組は実現しておらず、コロナウイルスの影響が長期化する状況下においては、交流機会の激減による悪影響、小規模事業者の事業継続と働き方・学び方改革への対応を解決すべき課題として、緊急支援の第2弾と位置づけ、助成事業を設計・公募した。また、第1弾で対象とした「生活弱者への支援とその体制強化」についても継続して対象に含むものとした。この結果、10団体からの申請を受け、8実行団体を選定して資金的支援・非資金的支援を行った。これにより、事業対象として1)中心市街地の事業者・訪問者、2)在宅勤務を強いられた労働者、3)子育て中の親と子、4)学校に行きづらい子どもたち、5)買い物難民、6)限界集落の住民及び関係者、7)外国国籍の住民、8)新しい働き方を模索する若者の支援を行うことができた。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	外出困難	・様々な手法を用いた交流促進のための体制整備	・交流促進のための具 体例	・具体例5つ	・様々な手法を用いた交流促進のための具体例が5つできた。 1)駅前拠点施設を核に中心市街地における交流促進 2)空き家を活用したレンタルスペースによる母子の交流促進 3)人口減少・超高齢化地域における店舗再生による地域住民の交流促進 4)限界集落における古民家を拠点にした都市住民との交流促進 5)中間支援組織を核に	1)八日市まちづくり公社は、八日市商店会連盟、八日市大通り商店街振興組合、本町商店街振興組合、八日市駅前近代化協同組合等の商店街組合と連携し、コロナの影響で来客が激減した事業者のために、飲食店マップ（東近江八日市ぶらり市街地マップ）を作成し広報することによって、駅前拠点施設（SATSUKI-RO）を核に中心市街地における来訪者との交流が促進できるようにした。 2)マミーズは、コロナによる外出自粛要請、仕事の自宅待機の増加等により孤立する子育て中の母と子のために、空き家を活用したレンタルスペースを整備・開設して、人目を気にせず気軽にママ友会やくつろぎサロンなどが開催できるようにした。 3)愛のまち合同会社は、コロナにより集いの場や行事の中止などにより、家に引きこもりの状態にある高齢者のために、店舗を再生し交流スペースをつくり、各種イベントや教室等を通じて、集落や世代を超えた新たな交流ができるようにした。 4)木地師のふるさと高松会は、整備した古民家を拠点に、地域資源である木地師の文化財を展示、活用して、交流人口、関係人口を増やすために、住民と都市住民とが交流できるようにした。 5)まちづくりネット東近江は、コロナの影響で雇用調整等により仕事時間が減り孤立や孤独を抱えている外国籍の住民のために、フェスタやオンラインサロンなどで多文化共生に向けた交流が促進できるようにした。

コロナで影響を受ける従事者	就業困難	・働き方・学び方改革を試行する機会の提供	・拠点の整備と機会の具体例	・具体例4つ	・働き方・学び方改革を試行するための機会の具体例が4つできた。 1)在宅ワークができる環境が家庭で整わない人が安心して働ける機会の提供 2)子育て世代のママが新しい生業を試行できる機会の提供 3)古民家をサードプレイスに、地域資源を活用した学びの機会の提供 4)空ビルを活用した「兼業」、「協働」をキーワードとする新しい働く機会の提供	1)八日市まちづくり公社は、駅前拠点施設(SATSUKI-RO)において、コロナにより在宅勤務を強いられたが、在宅ワークができる環境が家庭で整わない人が安心して働けるワーキングスペース、レンタルオフィス、レンタルスペースを整備して、提供できるようになった。 2)マミーズは、空き家を活用してレンタルスペースを整備・開設して、子育て中の女性が、一人ひとりのスキル、経験、才能、モチベーションを活かした新しい生業を試行できる機会を提供できるようになった。 3)がもう夢工房は、学校が再開しても馴染めず、学校に行きづらい子どもたちのために、古民家を整備しサードプレイスにして、地域資源を活用した学びの機会を提供できるようになった。 4)かねいビル愛好会は、コロナにより勤め先の倒産や雇用調整により仕事を突然失うリスクが増加しているため、空ビルを整備・活用して「兼業」、「協働」をキーワードとする新しい働く機会を提供できるようになった。
外国人・外国にルーツを持つ人	外出困難	・生活弱者への支援とその体制強化	・支援と体制の具体例	・具体例2つ	生活弱者への支援とその体制強化の具体例が2つできた。 1)人口減少・超高齢化地域における店舗再生による買い物難民支援 2)商業施設の空きスペースを活用した多様な接触、アウトリーチによる子育て支援の活動	1)愛のまち合同会社は、高齢者や障がい者等の交通弱者にとって、身近で命を支える生活の必需品を買い求められる店舗を再生するとともに、移動販売・宅配サービスを併せて行い買い物難民の支援ができるようになった。 2)ぐるりは、市内中心部の商業施設の空きスペースを整備、拠点としてスクール事業やサポート事業、WEBでの取り組みを開始して、多様な接触、アウトリーチによる子育て支援ができるようになった。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大が継続しても、終息しても、これら8実行団体の拠点や活動により、地方における新しい暮らし方・働き方を目指す人や生きづらさを抱える人への支援が始まり、地域内外との交流も促進されている。 ・生きづらさを抱える様々な人に対して、緩やかな居場所が提供され、生きる意味と役割を見出すことのできる地域ができてはじめています。 ・これらより移住・定住者の増加にも貢献できはじめています。
考察等	<p>本助成事業により、次の8実行団体の活動により、地方における新しい暮らし方・働き方を目指す人や生きづらさを抱える人へ緩やかな居場所の提供と支援が始まり、地域内外との交流も促進されるようになってきた。これらの活動が、コロナウイルス感染症の影響を受けた市民が新たな生きる意味と役割を見出したり、移住・定住者の増加に貢献できたりする一役を担うだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 八日市まちづくり公社：駅前拠点施設を核に中心市街地を活性化するために人を呼び込む活動（中心市街地の事業者・訪問者、在宅勤務を強いられた労働者） 2) マミーズ：空き家を活用した子育て世代の課題解決と可能性を引き出す支援活動（子育て中の親と子） 3) がもう夢工房：古民家を始め地域資源を活用し、自宅や学校で過ごすに子どもたちの生きる力を地域で育成する活動（学校に行きづらい子どもたち） 4) 愛のまち合同会社：人口減少・超高齢化地域における店舗再生と住民の暮らしを支える活動（買い物難民） 5) ぐるり：商業施設の空きスペースを活用した多様な接触、アウトリーチによる子育て支援の活動（子育て中の親と子） 6) 木地師のふるさと高松会：限界集落における古民家を拠点に地域資源を活用した交流・関係・移住人口を促進する活動（限界集落の住民及び関係者） 7) まちづくりネット東近江：多文化共生まちづくりのきっかけづくりと体制を検討する活動（外国国籍の住民） 8) かねいビル愛好会：空ビルを活用した「兼業」、「協働」をキーワードとする新しい働き方のモデル実証活動（新しい働き方を模索する若者）

V. 活動

各実行団体の活動詳細 ※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

実行団体名	一般社団法人八日市まちづくり公社	
活動	進捗	概要
①【つくる】SATSUKI-ROを複合施設（ワーキングスペース、レンタルオフィス、レンタルスペース）に改修した。	計画通り	ワーキングスペース、レンタルオフィス、レンタルスペースの機能を付加した。
②【つくる】SATSUKI-RO利用者のコロナ禍感染防止対策（ガイドラインの作成、空調設備、アクリル板、消毒など）を実施した。	計画通り	利用者が安心して利用できるようにコロナ禍感染防止対策を実施した。
③【つくる】SATSUKI-ROの利用環境（ネットワーク環境、コピー機など）を整備した。	計画通り	利用環境を整備した。

④【集める】商工会議所（八日市エリア対象）の「ようかいち起業塾」、湖東信用金庫の「ことしん経営塾」と連携し、塾生に空店舗マッチングとSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図った。	計画通り	商工会議所の「ようかいち起業塾」、湖東信用金庫の「ことしん経営塾」において、塾生に対してSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図った。
⑤【集める】地域イベントと連動して内覧会を開催しSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図った。	計画通り	本町秋バサージュ2021に出店し、SATSUKI-ROの周知と利用拡大を図った。
⑥【集める】テレビ放送を利用してSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図った。	計画通り	東近江市ケーブルネットワークの番組がSATSUKI-ROで撮影され、市民に向けて周知と利用拡大を図った。
⑦【集める】学校に働きかけ、学生にSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図った。	計画通り	滋賀県立大学、びわこ学院大学の地域社会学等の授業において、SATSUKI-ROを活用いただき周知と利用拡大を図った。
⑧【誘導する】店舗と人の流れを誘導するための事業を一緒に考えた。	計画通り	コロナ禍感染拡大の影響で大きなダメージを受けた飲食店の復活のため、八日市商店会連盟、八日市大通り商店街振興組合、本町商店街振興組合、八日市駅前近代化協同組合等の商店街組合と連携し、中心市街地を対象とした飲食店マップ（東近江八日市ぶらり市街地マップ）を作成した。

実行団体名	一般社団法人マミーズ	
活動	進捗	概要
①古民家のリノベーション	ほぼ計画通り	令和3年5月に完成した。
②「レンタルフリースペース」の存在をマミーズのホームページやInstagramラム・無料情報誌掲載等で広告宣伝	ほぼ計画通り	主に、日タインスタグラムの更新をし、無料情報掲載誌「オウティ」に3月～6月掲載、10月～3月に広告宣伝を行った。またチラシA4版を、市役所、まちづくりネット、八日市地区まちづくり協議会、八日市商工会議所などに設置して頂いた。
③レンタルフリースペース運営	ほぼ計画通り	9月までは緊急事態宣言の影響で利用が伸びなかったが、緊急事態が解除された10月以降は「やっと動けます」「何か始めたくて～」と動き出す人が出てきて、利用が増えてきた。 1ママのためのフリースペース（自分を発揮できる場所） 1-ア）何かを教えたい人33回＝パン教室、バランスボール教室など 1-イ）自分のお店を開く34回＝サロン、手相、ヒーリングなど 1-ウ）自分の活動拠点にする2回＝撮影、YouTube動画 2親子のためのフリースペース 2-ア）くつろぎサロン＝7回お菓子づくり、ケーキづくり、ミーティングなど 2-イ）記念日、撮影＝10回お誕生会、送別会、クリスマス会など 2-ウ）ママ友会＝7回 3子どものためのフリースペース＝73回プレ保育、子どもの仲良し会 4その他＝25回地域の健康体操など

実行団体名	一般社団法人がもう夢工房	
活動	進捗	概要
①活動拠点である古民家旧岡村邸の改修整備、インターネット環境の整備、コロナウイルス感染対策整備	計画通り	【1階】4間のフローリング、空調機設置。事務室のフローリング、インターネット環境整備 【1階土間】厨房設備新設 【2階】電気設備修繕、【外回り】雨戸修繕、一部外壁塗り替え
②-1.自宅、学校以外で学んだり友達と過ごしたりできる居場所や子ども食堂の提供準備としてのネットワーク構築（関係者との話し合いや他のフリースクールとの交流など）	ほぼ計画通り	近江八幡市のフリースクール2団体と情報交流、同じく子ども支援団体と情報交流を行った。その中で「試行」を実施する運びとなったことは、大きな収穫であった。また、東近江市内だけでなく東近江圏域での子ども支援団体のネットワーク構築を進められている中に当方も加わり、進めていきたいと考えられた。
②-2.学校に変わる学習の場の提供準備（講師（協力者への依頼）、教材・運営計画（授業料含む）等の検討・作成）	ほぼ計画通り	新ガリ版ネットワーク（ガリ版体験）、梵ジュール里山クラブ（梵釈寺：里山散策と座禅体験）、蒲生野考現倶楽部（フィールドワーク）、元教職員（学習支援）、地元農家（農業体験）に講師を依頼、様々な体験を「教材」にできた。運営計画（授業料など）は、授業内容や予定価格が適正であるか検証中。
②-3.ガリ版を活用した芸術体験の場の提供準備（芸術家、ガリ版作家等への依頼）	ほぼ計画通り	京都在住のガリ版画家へ依頼 実演を実施した。東近江市在住の謄写版画家は、移住から間もなかったため次年度以降の実演や体験については協力いただけることとなった。滋賀県内の若手作家（活版とガリ版を使った作品作り）への働きかけも進めた。
②-4.農地や川を活用した野外体験の場の提供準備（農家や環境系NPO等への依頼）	ほぼ計画通り	近傍の里山整備活動団体や坐禅体験ができる禅寺へ依頼済。農家については、農家民泊受入れ農家へ収穫体験等を依頼済。
②-5.2022年度よりフリースペース（将来的な自宅、学校以外の第3の居場所フリースクール）として活用するための試行	ほぼ計画通り	近江八幡で活動する「since」（フリースクール）、「蜜柑の木」（子ども支援団体）の協力で、2月28日に試行。新ガリ版ネットワーク、梵ジュール里山クラブの協力を得て「ガリ版&里山体験」を実施することができた。
③-1.謄写版に所縁のある企業などを対象とした少人数制の企業研修の場の提供準備と試行（研修・営業資料の作成、企業訪問、試行）	ほぼ計画通り	研修資料と営業資料を作成。試行は東近江市内の企業に協力願ひ、近江商人堀井家の企業精神やガリ版文化についての講演や、ガリ版の実演、体験等を2月26日に参加者4名で実施した。企業訪問は、首都圏へ赴く予定であったがコロナ感染拡大のため実施できなかった。しかし、滋賀県内の印刷業の企業人（日本グラフィックサービス工業会員）他と意見交換した。
③-2.ガリ版文化の発信・地域ビジネス化の拡大	遅延あり	ガリ版文化の発信については、ガリ版伝承館に拠点のある新ガリ版ネットワーク（会員は全国60名）と連携し、ホームページからの情報発信をしており、4月には旧岡村邸（がりばん学校）の情報も掲載予定。以前作製したガリ版体験プログラム（リーフレット）も4月以降で改訂し関係者に配付予定（HPにも掲載）。

実行団体名	愛のまち合同会社	
活動	進捗	概要

①暮らしに寄り添った買い物サービスを実施	ほぼ計画通り	移動販売は9月6日から地区内の自治会を週1回巡回する計画でスタートした。 宅配サービスは、電動スクーターを利用し、注文に応じて1日2回配達するサービスとして11月27日にスタートした。 送迎サービスはコロナ禍において、各自治会の宅老所（しあわせホーム）が開催されておらず、開催され次第連携して進めていく計画とした。
②住民が楽しく集える相互安否確認の場	計画通り	相談窓口としてふくしモールの職員が週1回常駐して、困りごとの相談に応じる体制を構築した。
③交流スペースが多用途に利用される	計画通り	イトインの利用や休憩に主に使われている。 その他、11月から毎週日曜日は地域の人と教室やマルシェなどのイベントを開催している。また、合同会社集落による介護予防・日常生活支援として、「ヘルス＆ワーク倶楽部」が10月からスタートした。
④多様な働きの場を提供する	計画通り	あいとうふくしモールと連携し、引きこもりやニートの若者を対象に行っている中間就労の場で作られた野菜やおにぎり、味噌を店舗で販売している。 子育て女性には、週3日や時間を考慮した就労の場を提供している。
⑤住民の手づくり品が並ぶ	計画通り	オープン以降、野菜や手作り加工品等の出店も増えており、地元産コーナーを設けて販売の促進を行っている。
⑥防災時の物資供給拠点として	計画通り	食料品を中心に生活用品が揃うことから、災害時に対応できる体制を進めている。

実行団体名		一般社団法人ぐるり（前Loops）
活動	進捗	概要
①感染対策を整えた施設整備	計画通り	平和室内の拠点、駅前の支店ともに、整備工事を完了し事業をスタートすることができた。
②ICTを活用した支援体制の構築	計画通り	施設のICTを整備し、オンラインイベントをスタートすることができた。また、ティーン向けオンライン居場所づくりの基盤を作ることができた。個別の相談支援の仕組み構築は引き続き検討することとした。
③スクール事業のスタートアップ	計画通り	期間中80回の様々な講座を開講した。運営体制や人気講座の傾向が把握できたので、次年度以降の事業計画の参考にしていく。
④サポート事業のスタートアップ	計画通り	ワンコインサポートの仕組みと運営体制を構築し、広報をスタートさせることができた。
⑤寄付の仕組みづくり	計画通り	子育て世代の健やかな暮らしや学びの機会を支えるため、寄付を募る仕組みを検討した。当団体の直近の事業計画に基づき、寄付体制は来年度以降引き続き検討することとした。
⑥持続可能な子育て支援を考えるダイアログ	計画通り	子育て未経験の3名の男性と対話の場を設けた。
⑦ティーン向けオンライン居場所づくりスタートアップ	計画通り	オンラインコミュニケーションツール「Discord」を利用した交流の仕組みを構築した。来年度から運営スタートする。

実行団体名		木地師のふるさと高松会
活動	進捗	概要
①「吉民家の改修」と「木地師のふるさと交流館」の整備	計画通り	地域住民等への事前周知なども含めて、計画通り進めることができ、盛大な開館を迎えることができた。
② 拠点を活用した交流イベント等を実施する。	ほぼ計画通り	コロナや豪雪の影響で実施できなかったイベントもあるが、限られた機会ながらも交流機会を作ることができた。 実施できなかったイベント等に関しては、コロナの状況を鑑みながら、来期に向けて企画・計画を進めているところである。
③ 交流館の「週末の常時開放」と「平日の予約開放」	計画通り	毎週末の常時開放も含めて、計画通り実施することができ、来期以降は更に回数を増やして実施する意気込みである。 富士フィルムの協力を経て、最高品質の「氏子狩り帳」のレプリカ、「能面」のレプリカ作成に取り組めた。

実行団体名		特定非営利活動法人まちづくりネット東近江
活動	進捗	概要
多文化共生フェスタのボランティア募集	計画通り	多文化共生フェスタは、ボランティアの方に参加していただき、一緒にフェスタを盛り上げてもらっている。開催後の会議では全員が来年度以降もこのような機会が必要だという熱が高く、継続して開催できるように収益化も含めて計画していく。
多文化共生フェスタの実行委員会で内容を検討	計画通り	多文化共生フェスタの内容は、実行委員会形式にして、どのように進めていくか、コンテンツの内容などを検討する。また、東近江で多文化共生のまちづくりに必要なことを考えてきた。
医療従事者に翻訳ツールを知ってもらう機会を創る	計画通り	医療従事者に翻訳ツールを知ってもらう機会をつくった。オンラインでの翻訳サービスのサブスク料金が医療対応プランは非常に高く、継続して提供できる仕組みを作るのは難しいという課題は残った。
多文化共生フェスタの開催	計画通り	計画時は、リアルでの開催を予定していたが、コロナ感染者が増加したため、オンラインでの開催に変更した。
オンライン等で、外国籍の方や日本人も含めて話をする場をつくる	計画通り	サロンを開催し、料理教室を行ったり、文化を知る機会をつくる。
多文化共生に取り組む組織の設立方針の検討	ほぼ計画通り	地域の現状を知り、外国人の支援を行っている方に集ってもらい、今後の事業内容の検討を行う。

実行団体名		かねいビル愛好会
活動	進捗	概要
①かねいビル改装工事	計画通り	エアコン、トイレ、電気など全体の改装は概ね完了した。
②各部屋の改装	ほぼ計画通り	順調に進んでいるが、まだ完了していない部屋もいくつかあり、今後も引き続き発信していく。
③かねいビルのブランド構築・情報発信	ほぼ計画通り	現在、満室になり、今後の各部屋の活動がかねいビルのブランドとして構築されていくので、ブランドと言えるほどのものが確立されるのは時間がかかるが、情報発信を続けていく。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<ul style="list-style-type: none"> ■空き家、空き店舗など地域の7つの遊休資源が、リニューアルされ活動拠点となった。 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家（八日市まちづくり公社、マミーズ、がもう夢工房、木地師のふるさと高松会） ・空き店舗（愛のまち合同会社） ・空きビル（かねいビル愛好会） ・大型商業施設の空きスペース（ぐるり） ■活動拠点における想定外の活動の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・八日市まちづくり公社：飲食店（3店舗）から和室フリースペースを活用して仕出しを提供するコロナ企画の提案 ・マミーズ：地域のコミュニティセンターの閉鎖に伴う代替利用（高齢者の健康体操グループの利用） ・がもう夢工房：他地域のフリースクールの利用 ・ぐるり：父親の他、高校生が「赤ちゃん抱かせてください」と来たりと、母親だけでなく多様な利用者が増加 ・まちづくりネット東近江：多文化共生フェスタは1日限りのイベントではなく、動画での配信になったことで、長期的に閲覧してもらえる機会が増えたりして、結果的にアクセスが増加 ・かねいビル愛好会：複業の一環ではなく本業一本として部屋を使いたいという入居者の出現
---------------------	---

Ⅶ. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>新型コロナウイルスの感染拡大が長期化し、地域は深刻な状況が続いている。</p> <p>中心市街地の事業者（特に飲食業者）は、コロナ対策等のPRや様々な営業活動を行っているが、客足はなかなか戻ってこない状況である。</p> <p>各自治会で開催されていた高齢者の寄り合いの場が復活せず、子ども会などの各種行事は中止され、近所や友人間の日々の往来も自粛している状況が続いている。</p> <p>一度変わってしまった人々の生活様式が戻るには、まだまだ時間を要することが懸念される。</p> <p>その中で本助成事業により、8つの実行団体が拠点を持ち、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、制度の狭間で支援が十分でなかった多様な市民のポストコロナ対策の支援を開始できたことは意義のあることであつたと考える。</p> <p>今後も、コロナ禍が日常化する中、新たな社会課題に気づき、解決しようとする市民団体のニーズの発掘、寄り添い、支援を行ってきたい。</p>
-----------	---

Ⅷ. 他団体との連携

活動	実績内容	結果・成果・影響等
駅前拠点施設を核に中心市街地を活性化するために人を呼び込む活動（八日市まちづくり公社）	<ul style="list-style-type: none"> ・八日市商店会連盟、八日市大通り商店街振興組合、本町商店街振興組合、八日市駅前近代化協同組合;コロナ禍感染拡大の影響で大きなダメージを受けた飲食店の復活のため、中心市街地を対象とした飲食店マップ作成の意見交換 ・商工会議所の「ようかいち起業塾」、湖東信用金庫の「ことしん経営塾」において、塾生に対して八日市まちづくり公社の概要と拠点施設の広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の交流促進 ・商工会議所の「ようかいち起業塾」、湖東信用金庫の「ことしん経営塾」において、塾生に対して八日市まちづくり公社の概要と拠点施設の広報
空き家を活用した子育て世帯の課題解決と可能性を引き出す支援活動（マミーズ）	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりネット東近江、東近江地域勤労互助会、八日市地区の子育てサークル、八日市商工会所;マミーズの概要と拠点施設の広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の周知と拠点施設の利用促進
自宅や学校で過ごしていく子どもたちの生きる力を地域で育成する活動（がもう夢工房）	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域のフリースクールの主催団体Since、蜜柑の木との連携、情報交換 ・地域の活動団体蒲生野考現倶楽部、梵ジュール里山保全クラブ、新ガリ版ネットワークとの支援プログラムづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅や学校で過ごしていく子どもたちの生きる力を地域で育成する活動のための情報収集やプログラム作成
店舗再生と住民の暮らしを支える活動（愛のまち合同会社）	<ul style="list-style-type: none"> ・愛東の暮らし・つながり創造会議：集客イベントや広報活動、宅配事業等の応援 ・愛東地区まちづくり協議会：集客イベントや広報活動の応援 ・あいとうふくしモール運営委員会：若者支援の加工物や生産物の販売や困りごと解決の相談窓口設置 ・合同会社集策：平日の午前中に交流スペースを利用した介護予防と健康づくりを目的としたヘルス&ワーク事業を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗再生と住民の暮らしを支える活動促進
多様な接触、アウトリーチによる子育て支援の活動（ぐるり）	<ul style="list-style-type: none"> ・東近江市、社会福祉協議会：孤立する母子への当事業の紹介 ・平和堂（大型商業施設事業者）：利用料の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・接触の機会の増加 ・間接的な資金支援
地域資源を活用した交流・関係・移住人口を促進する活動（木地師のふるさと高松会）	<ul style="list-style-type: none"> ・東近江市役所 歴史文化振興課：木地師のふるさとにおける、歴史文化の展示物等に関する監修・アドバイス ・富士フィルム株式会社：県指定文化財のレプリカ作成支援より、地域資源を活用した新事業について連携への発展 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の発信の促進 ・新規事業の立ち上げ
多文化共生まちづくりのきっかけづくりと体制を検討する活動（まちづくりネット東近江）	<ul style="list-style-type: none"> ・東近江国際交流協会：多文化サロン、フェスタではたくさんの国の方とのつなぎ役 ・東近江市ラウンドテーブル運営委員会：まちのわ会議、市内に住む外国籍の方4か国（ベトナム、ペルー、韓国、ブラジル）に集まってもらい会議運営を担う ・東近江市立図書館：館内での広報や、スタンプラリーの消しゴムハンコ作成者とのつなぎ役 ・オンライン配信団体：多文化共生フェスタのオンライン化において撮影や編集の面で協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生まちづくりのきっかけづくりの促進
空ビルを活用した「兼業」、「協働」をキーワードとする新しい働き方のモデル実証活動（かねいビル愛好会）	<ul style="list-style-type: none"> ・honmachi93：入居者の紹介、店舗の紹介、案内の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者、活動の情報発信の促進

Ⅸ. インプット（精算金額と一致させる必要はありません）

事業費	2020年度		2021年度		合計	実績額	執行率
	直接事業費	管理的経費					
		¥327,500	¥60,000,000	¥10,192,500	¥60,000,000	¥60,000,000	100%
	プログラムオフィサー関連経費	¥435,000		¥2,545,000	¥2,980,000	¥2,980,000	100%
	合計	¥762,500		¥72,737,500	¥73,500,000	¥73,500,000	100%
補足説明							

X. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	持続可能な地域づくり 公益財団法人東近江市三方よし基金 2022年4月12日(火) 第19321号 東近江・湖東 ニュース
広報制作物等	有	実行団体動画作成（ https://youtu.be/59qhTdUW80 ）、実行団体活動紹介冊子作成、PO活動紹介冊子の作成、成果報告会動画配信（ https://youtu.be/59qhTdUW80 ）

報告書等	有	事業報告書
------	---	-------

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	https://3novoshi.com/koukoku/
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
<p>新型コロナウイルスの感染拡大が長期化し、地域は深刻な状況が続いている中、実行団体は対象者の声に耳を傾け、臨機応変に対応して活動を実施してこられた。本事業により、地方における新しい暮らし方・働き方を目指す人や生きづらさを抱える人へ緩やかな居場所の提供と支援が始まり、地域内外との交流も促進ができるようになったのは、人と人をつなぎやすい市域エリアだからこそ実現できたと感じる。本事業によって、市内のポストコロナに向けた多様な7つの活動拠点と8つの活動が始まったことだけでなく、その活動や本事業の見える化、プログラムオフィサーの存在意義の見える化もできたことに感謝申しあげる。</p>